

アレクサンドル・グロタンディーク(Alexander Grothendieck)氏が11月13日に逝去された。享年86歳。専門は関数解析学、代数幾何学、数論など。

スキーム論の考案、エタール・コホモロジーの発見などで知られ、その後のヴェイユ予想、モデル予想の解決へと導いた。また、代数幾何の基礎づけを行うことを目指した『代数幾何原論(EGA)』『代数幾何セミナー(SGA)』を刊行したことで知られる。1966年にフィールズ賞を受賞した。

ユーージン・ディンキン(Eugene B. Dynkin)氏が11月14日に逝去された。享年90歳。専門は代数論と確率論。

確率過程やリー群論などを研究し、両分野において「ディンキン図形」「ディンキン指数」「ディンキンの補題」「ディンキンの公式」「ディンキン系」など、名のあるものを数多く遺している。1993年にスティール賞を受賞した。

宇沢弘文(うざわ・ひろふみ)氏(東京大学名誉教授)が9月18日肺炎のため逝去された。享年86歳。専門は数理経済学。

新古典派の経済成長理論の数学的定式化を進め、「宇沢二部門成長モデル」などで知られた。1997年に文化勲章を受章した。

著書に『自動車の社会的費用』(岩波書店(岩波新書))など多数ある。

佐武一郎(さたけ・いちろう)氏(カリフォルニア大学バークレイ校・東北大学名誉教授)が10月10日に逝去された。享年87歳。専門は代数学。

著書に『線型代数学』(裳華房)など多数ある。

小誌では、連載「リー群の話」(1980年6月号～1981年7月号)、「リー環の話」(1985年1月号～1986年4月号)、「フラレンと正12面体の幾何学」(2010年10月号～2011年3月号)などでご登場いただいた。

水谷静夫(みずたに・しずお)氏(東京女子大名誉教授)が7月2日、肺炎ため逝去された。享年88歳。専門は計量国語学。

著書に『言語と数学』(森北出版)、『曲り角の日本語』(岩波新書)など多数がある。

『岩波 国語辞典』(岩波書店)の編集(共著)も務めた。

小誌では「国語学に見る計量と数理」(1993年10月号)などをご執筆いただいた。

西田吾郎(にしだ・ごろう)氏(京都大名誉教授、元京都大副学長)が6月2日、敗血症性ショックのため逝去された。享年70歳。専門は代数的トポロジー。

著書に『ホモトピー論』(共立出版)などがある。

小誌では「Daniel Quillen」(1979年2月号、リレー連載「フィールズ賞物語」)をご執筆いただいた。

中山茂(なかやま・しげる)氏(神奈川大学名誉教授)が5月10日、肝細胞癌のため逝去された。享年85歳。専門は科学史。

科学史家トーマス・クーンの『科学革命の構造』(みすず書房)を翻訳し、「パラダイム」の概念を日本に紹介したことで知られている。

編著書・訳書に『通史 日本の科学技術』(全5巻, 後藤邦夫, 吉岡齊との責任編集, 学陽書房), 『パラダイムと科学革命の歴史』(講談社), 『数学の文化史』(モリス・クライン著, 河出書房新社)など多数ある。

小誌では, 「クーン『科学革命の構造』」(1991年9月号「特集: 20世紀を揺るがした21冊」)などでご登場いただいた。